

建築主：富士ゼロックス株式会社 丸山 厳浩

設計者・施工者：清水建設株式会社 山田祥裕、中川健太郎、諸星雅彦、藍原弘司



みなとみらい21地区と建物外観（撮影：吉田写真事務所）

## 建築概要

建設地：横浜市西区みなとみらい6-1

建築主：富士ゼロックス株式会社

設計：清水建設株式会社

施工：清水建設株式会社

建築面積：11,343.12m<sup>2</sup> 延床面積135,253.62m<sup>2</sup>

階数：地上20階、地下1階 高さ：98.661m

構造種別：S造（柱CFT）、一部SRC造

## 選評

人と社会と環境をつなぐという企業理念を、自社のR&D拠点を建設するにあたり、建物を通して社会に実現しようという建設主の熱い意欲が感じられる作品である。このコンセプトは、フレキシビリティのある大空間のオフィス、外周回廊、スキップポイド、高い階高、高い環境性能、緑の丘などとなって建物各部に現れている。しかしながら建設地は軟弱地盤上であり、制震構造では地盤の周期を避けるのが難しい。高い耐震性能の要求もあり、長周期な免震構造の採用は必然的な解決策ともいえよう。ペDESTリアンデッキからのエントランスが3階であり、4階から上が免震の中間階免震であるが、4階の外壁をうまく下ろすことで、免震クリアランスが全く外部から見えない。免震とは思われない外観もおもしろい。建築主の建物に対する熱意に応え、設計者、施工者の努力が実った作品は免震協会賞として評価するものである。3月11日の地震には構造的被害はなく、什器・備品などの転倒や移動などもなかったと聞かすが、BCP対応として導入された構造ヘルスマニタリングシステムがどのように機能したかなども分析・報告をし、今後の参考となることをお願いしたい。

（古橋 剛）

## 免震化した経緯及び企画設計等

本建物の構造計画を行う上で、三つの解決すべき課題があった。一つは建築のコンセプトである新しい共創空間・特徴的な形態を実現すべく、構造架構形状も矩形ではなく、やわらかい曲線で構成すること。二つに埋立地による軟弱地盤であっても高い耐震性を確保し、災害時にも研究・開発拠点としての機能維持を目的とするBCPIに配慮した計画であること。そして1フロア6,000m<sup>2</sup>もの空間をフレキシビリティに富むワークスペースとするため、できる限り柱を少なくし、かつ細柱とすることであった。これら三つの課題を解決するために、中間階免震構造と高強度CFT柱を組合せた構造システムを採用した。

## 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

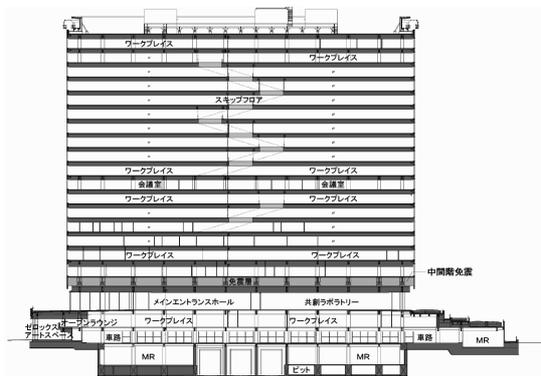
レベル2地震時における弾性設計をより確実なものとするために、鋼管に建築構造用高降伏点鋼材を用いた高耐力CFT柱を採用した。免震構造と組み合わせることで、約3,000m<sup>2</sup>のワークスペースを最小限の柱径・柱台数で実現できた。

本構造システムの採用により、耐震性能的にも経済性の面でも免震構造の有用性が発揮できた。フレキシビリティを高め、建築のコンセプトである楕円空間を無理なく、かつ合理的に実現した点も構造計画上の特徴である。



建物内観（外周縁側空間）  
（撮影：NARU建築写真事務所）

緑の丘とファサード  
（撮影：吉田写真事務所）



断面図